コロナ禍前後の住宅での「接点空間」の研究-

- ポストコロナにおける「地域へのつながり」を意図した住宅の設計思考 -



Keywords

新型コロナウイルス感染症 地域コミュニティ 接点空間 設計思考 アンケート調査 アクティビティ DZ18205 山脇 潤

1. 研究背景と目的

1.1. 社会的意義

新型コロナウイルスは、未だに日本各地で猛威を振るっており、その影響(コロナ禍)は完全な沈静化の目途が立っていない。コロナ禍では、社会的距離の確保や人流抑制のために様々な対策が行われ、人々の生活は大きく変化した。例えば、オフィスに通勤しない在宅勤務が増加しており、2020年4~5月の緊急事態宣言解除後も宣言前に比べて増えているという指摘もあるり。こうした変化は仕事以外にも起こっており、大学等の授業はオンライン化・ハイブリッド化し、ネットショッピングやデリバリーも増加している。このように従来は外出しなければなしえなかったことが住宅内で完結するようになり、コロナ終息後(ポストコロナ)においてもその傾向はある程度維持されると考えられる。

コロナ禍以前,オフィスや買い物の場等での対面の関わり合いが様々な効用をもたらしており,コロナ禍はそうした機会を失わせた.一方,住宅中心の生活となることで,近隣住民との偶発的な交流が生じる可能性も期待される.そして,その際の交流の場として,住宅内部と敷地外に挟まれた庭やガレージなどの空間の役割が重要になると考えられる.本研究では,そうした住宅内部と敷地外を繋ぎ,近隣との交流の場となりうる空間を住宅における「接点空間」と定義して,研究対象とする.

1.2.既往の研究

住宅の内部空間や敷地外でのアクティビティ(ふるまい)についての研究は多くなされている。またコロと敷地外の研究もなされており、設計に対する課題も指摘されている。例えば、安田らは、住宅内の作業環境のストレス調査・机の配置によるストレス調査を行うことでステイホーム下での最適な作業環境の研究を行った。 鈴木らは、新型コロナウイルス蔓延直後に生じた潜在的な外では、新型コロナウイルス蔓延直後に生じた潜在的な外では、新型コロナウイルスウンルでは遠郊外では南部の周辺環境を重視する新しい保御があったと論じている。一方で、コロナ禍以降の庭やガレージ、ベランダなど内部と敷地外を繋ぐ接点空間で対いる対しられない。あらゆる面で在宅化が進む中で、外部と繋がる接点空間の分析が今後の建築における重要な課題の1つであるといえる。

1.3. 研究目的

研究指導:栗島

そこで本研究では、郊外住宅における交流を生み出す 接点空間の設えとコロナ禍前後のアクティビティの変化 を調査し、今後の住宅における接点空間の在り方につい て考察する.本研究によりポストコロナの「地域への繋

英明教授

がり」を意図した住宅建築を考える一助となればと考える.

1.4.建築化された領域

先述のように本研究では、庭やガレージ、ベランダなど住宅内部と敷地外を繋ぎ、近隣との交流の場となりうる空間を住宅における「接点空間」と定義した。加えて接点空間内にあって外部に連続し、かつ建築的な要素によって境界を規定された部分を「建築化された領域」と定義する(図1). つまり「住宅の領域」のなかで、内部空間の補集合として表される部分が「建築化された領域」であり、「接点空間」である.

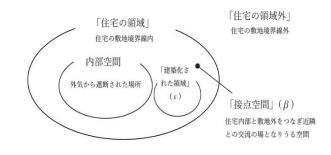


図1 「建築化された領域 (ϵ) 」「住宅の領域」「内部空間」「接点空間 (β) 」の位置関係

2. 調査方法

2.1.文献調査

(1)資料の選定と方法

2019年1月以降に設計された首都圏の住宅作品を資料として、コロナ禍前後での設計思考の差異を成立させる特徴を明らかにする. 資料の選定は2019年1月以降に「住宅特集」誌に掲載されたものを対象とし、設計期間の終了月が2019年1月~2020年3月のものをコロナ禍前、2020年4月~11月のものをコロナ禍後に設計された住宅として扱う.

(2)建築構成の分類・表の整理

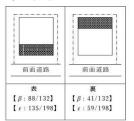
コロナ禍以降の住宅構成の一端を捉えるために,①設計時期,②前面道路との関係からみた配置(図2),③建築化された領域の状態(図3),④面積比,⑤位相関係,⑥動線的連続性(図4),⑦視覚的連続性(図5)の項目で分析を行った.

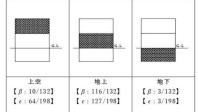
(3)親和図法による言説の分類

住宅の外部・地域(住宅の領域外)への繋がりに関する設計意図を検討するため、「住宅特集」誌の解説文より「外部・地域(住宅の領域外)と繋がる工夫」につい

Hideaki KURISHIMA

て、述べられている箇所を抽出し、質的分析方法の一つである親和図法⁴によりまとめた(図6). 親和図法とは、収集した情報をラベリング、カテゴリー化を行うことで意味の分かるような全体像とするプロセスで、KJ法とも呼ばれる.





接点空間の場所

図2 前面道路との関係からみた配置

注) 図中の数字は該当作品数を示す

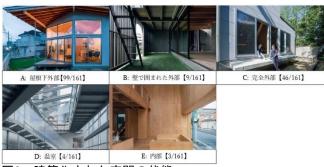
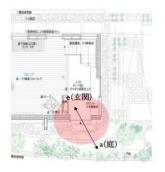


図3 建築化された空間の状態

注) 図中の数字は該当作品数を示す





No.61 みんか 2000

図4 動線的連続

注) 例えばNo. 61のみんか2020では「接点空間(庭)」から玄関へと至るのでaeである.









連続

接点空間の場所

図5 視線的連続性

20 ササハウス ローデータ 切妻の半分を窓内にあて、6 う半分の軒下空間を 屋外の縁側にすることで、日常生活に否応なく外 環境が入り込む、本来の内部を外部化した。 フベル (課題/軒下空間]・[長期] カテゴリー (外部との繋がり]

図6 言説の分類例

①ラベル [] 方法, {}目的

②カテゴリー【 】 [] - { } 因果関係

(4)マトリクスによる設計思考の傾向分析

(3)の「住宅の領域外と繋がる工夫」の言説の分類を縦軸, (2)の建築構成の分類を横軸にして,空間的側面に対するマトリクスを作成し,分析した4).事例が集中する箇所を把握するために該当事例の頻度5)を表中内に示し,考察の参考とした.なお,このマトリクスは,建築類型を示すものではなく,設計思考の傾向を考察する際に参考するものとして位置づける.

2.2.アンケート調査

「外部と繋がるための工夫」で設計者が考える視点と接点空間における実際の居住者のアクティビティに差があるのかどうかについて調べるために、文献調査を踏まえて調査票を作成し、アンケート調査を実施した。調査は、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県における戸建住宅の在住者200人(調査会社モニター)に対してWebにより実施した。調査項目を表1に示す。調査期間は、2021年11月15日~22日である。

表1 アンケート表

#1	Q1	コロナウイル 勤務時間 (5件法)	SA				
COVID-19 蔓延期		ス自粛期間に 通勤時間 (5件法)	SA				
間における生活環境		おける時間変 家事の時間 (5 件法)	SA				
調査		化 自由時間 (5 件法)	SA				
	Q2	COVID-19 蔓延期間中の外出頻度の変化(5 件法)	SA				
	Q3	COVID-19 蔓延下、住宅中心の生活になったか	SA				
#2	Q4 接点空間の有/無						
COVID-19 蔓延期	Q5	COVID-19 自粛期間下における"接点空間"の活動の頻度・	SA				
間において接点空間		時間の変化(ガーデニング、家庭菜園、BBQ、物干し、洗					
における生活環境調		車, DIY, 夕涼み, 日向ぼっこ, ベットの世話, 運動, 子					
查		供との遊び, 家族・友人・近隣住民との交流, 読書, グラ					
		ンピング・キャンプそれぞれを5件法で示す)					
	Q6	COVID-19 期間中,接点空間で増えた Q5 以外の行為	FA				
	Q7	COVID-19 期間中における接点空間において困ったこと	MA				
		(感染不安/他人からの警戒/熱中症/仕事と私生活の切り					
		替え/狭く窮屈で使い勝手が悪い/日陰空間がない/庭との					
		一体利用ができない/自由記述)					
	Q8	COVID-19 自粛期間終了後における"接点空間"の活動の					
		頻度・時間の変化(ガーデニング、家庭菜園、BBQ、物干					
		し、洗車、DIY、夕涼み、日向ぼっこ、ペットの世話、運					
		動,子供との遊び、家族・友人・近隣住民との交流、読書、					
		グランピング・キャンプそれぞれを5件法で示す)					
	Q9	COVID-19 終息後、接点空間で行いたい Q8 以外の行為	FA				
	Q10	COVID-19 期間中の近隣住民との交流(5 件法)	SA				
	Q11	COVID-19 期間中,接点空間における交流(5 件法)	SA				
	Q12	どんな場所での接点が増えたか (リビング、玄関、前	SA/FA				
		庭、ガレージ、庇空間、バルコニー (ベランダ)、デッ					
		キ、主庭、緑側、その他(自由回答)					
#3	Q13	接点空間の有無	SA				
COVID-19 蔓延期	Q14	接点空間と外部 (街路・隣地) の間に視線を遮る壁の有無	SA				
間前後での住宅環	Q15	接点空間とリビングの関係	SA				
境調査	Q16	家の内部と接点空間の連続性(庭・ガレージ・庇空間・バル	SA				
	555	コニー・デッキ・ウッドテラス・光庭)					
	Q17	半屋外空間の屋根部分における交流具合	SA				
	Q18	接点空間の使用用途	MA				

3. 調査結果

3.1. 文献調査

対象とした住宅作品は105であり、2019年1月~2020年3月に設計されたものが72、2020年4月~11月に設計されたもの33であった.調査の結果、「住宅の外部・地域(住宅の領域外)へのつながり」に関する建築構成と言説の両面からコロナ禍前後で以下の7つの空間特性が抽出された.

(1)屋根下外部(軒下)の"建築化された領域"の増加

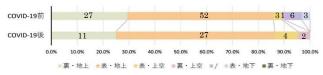


図7"接点空間"の配置の変化

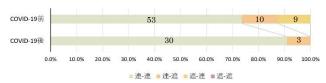


図9 視覚的連続性のCOVID-19蔓延前後の変化

表2 マトリクス分析

軒下 β の配置:蔓延前(左図)と蔓延禍以降(右図)のマトリクス分析

		βの配置					33333	βの配置 要・地上 表・地上 表・上空 裏・上空 表・地下 /								
_	個数			表・上	空裏・上	_			個数	裏・地					表・地下	/
		100	151		13	5	10 31	軒先・		1	39 1	11	14	11	- 0	_
先· 下空	15		5	1			1	軒下空		5 1	5					
	頻度	1.07	0.63	0.	.91		0.38	[6]	頻度	0.	53 0.9	4				
下	重加組	息関係.	萬延前	ír (F	図)と	营延 禍	以降(下	図)の	マト	リク	ス分析					
-	2974	KINI DIK	36,4511	3 (-1	-E-17 C	2.2011	SVI-F (I	動線								
	個数	aeア	ee1	-	amウ	ar≖	mrオ	rr.b	_	r÷	m2	e/	_	aZ	17	
	間知	1	-	- 1	94			44	16	1.7	57	42	4	-	25	
先・	15		1	- 7	10	8	62	2	-10	2	1	1	- 4	1	23	_
下至			1		7		3	7		,	ı.	*			1	
	頻度	0.7	7	2.97	1.26	1.	16 1.3	35	1.48	0.	62 (0.28				(
	_							動線	DD. (4)							
	個数	aeア	ee 1	T.	amウ	ar エ	mrat	rr z	_	r+	mク	e'	t _y .	aZ	17	_
	IN MA	10		15	48			16	7	1.7	16	31	1	_	23	
先・	- 2	7.0	1		5	2	2	10	-		10	31		1	20	
下空	5		0		,							_		0	- 1	
****	頻度	0.7	7	1.39	2.17	1.	07 2.6	60								
ッキ	- /	3の配	置(た)) R	*の配置	引(右);	蔓延前(上図)	レ高	延福1	川路(下	121)0	フマト	11 7	ス分札	F
Ť	Ť	HU	JE (/.E./		の配置	2(14).	2~111			~ II-32	MIT (I		*の配置		/3 //	
	個数	裏・地上	表・地上		空裏・上	空表・地	F /		個数	恵・地	上表・地上				長・地下 /	
		100	151		13	5	10 31			1	89 10		50	28	14	
ッキ	3	1 :	2	1				デッキ	2	3		1				
h	頻度	0.59	0.79	4	.56	1			頻度	0.	94	1	.19	_	- 1	
=		_		-	3の配置							-	3*の配置	22	_	
	個数	裏・地上	表・地上		空裏・上	空表・地	F/		個数	裏・地	上表・地」		空裏・		長・地下 /	6
		39	111			11	0 0		11-12-0		24 2		81	37	7	_
ッキ	7	3	5					デッキ	- 7	7	1	4	2	1	1	
H	頻度	1.14	0.67	_	_	+	-		頻度	0.	72 0.5	5 0	.73	0.80	2 12	
_				7.T14	: (+- tol)	1. 世元	くろほ しょりな	(+ w	_		1000		-10	0.00	2112	
ッキ	- 1	3 -07 17	、悲:受			と受理	E禍以降	(石区	707	2 1 7	クスカ					
\neg				β	*の状態								*の状態			
	個数	A	В	C)	E		個数	Α	В	C		D	E	
		115	5 2	266	13	3	15	デッキ	_		68	122	1	.5	13	
ッキ	3	200	1					794		7 2	1					
	頻度	1.55	0.	.67					頻度		0.44	0.85				
ッキ	- I	 协線関	系:蔓萸	正前	(上図)	と蔓延	禍以降(下図)	のマ	トリ	クス分	析				
					50 102350			動線	即伍	100		0.000				
		V 200 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 1				_	mrオ	rr.th		r÷	m2	e.	т	1		
Í	個学	aeT'	ee/	- 1	am ウ				- 11					la Z	1	
	個数	aeブ	ee4	4	amウ 94	arI	82	44	16	-	57	42	47	aZ	25	
		1		4			82		16	1	57	42	4		25	
	3	2	70	4	94	1			16	1	2	42	4		25	
		1	70	4					16	1	57	42	47		25	
	3	2	70	4	94	1			16	1	2	2.83	4		25	
	3 頻度	2	70	4	94	1		44	16	1	2	42 2.83			25	
	3 頻度	2 0.7	70 '0	4	94 1 0.63	1 0.	72 mr#	44	16	1	2 2 2	2.83		az	/ 25 / 23	
ッキ	3 頻度	2 0.7 ae \mathcal{V}	70 '0	4	94 1 0.63 amウ	1 0.	72 mr#	動線 rrカ	16 注 関係	1	57 2 04 m 2	2.83 e/	r	az	/	
ッキ	3 頻度 個数 7	2 0.7 ae 7	ee-1	15	94 1 0.63 amウ 48	1 0.	mrat 39 2	動線 rr力	16 注 関係	1 1. r+	57 2 04 m 2 16 3	2.83 e/	r 11	az	/	
ッキッキ	3 頻度 個数 7 頻度	2 0.7 ae 7 5	ee-1	4	94 1 0.63 amウ	1 0.	mrat 39 2	動線 rr力	16 注 関係	1 1.	57 2 04 m 2 16 3	2.83 e/	r	az	/	
ッキッキ	3 頻度 個数 7	2 0.7 ae 7 10 5 0.6	70 ee-f 1	15	94 1 0.63 am*> 48 2 0.62	1 0. ar = 3	mrat 39 2	数線 mカ mカ 16	16] 関係	1 1.	57 2 2 04 4 4 4 16 3 3 86 1	2.83 e/ 31 1	1.39	az	23	ス分
ッキッキ	3 頻度 個数 7 頻度	2 0.7 ae 7 10 5 0.6	70 ee-f 1	15 0.99	94 1 0.63 am'7 48 2 0.62	1 0. ar = 3	72 mr = 39 2 1.8	数線 mカ mカ 16	16] 関係	1 1.	57 2 2 04 4 4 4 16 3 3 86 1	e/ 31 1.44 条(下	7 1.39 図)の	aス	23	ス分
ッキッキ	3 頻度 個数 7 頻度	2 0.7 aeγ 10 5 0.6	70 ee-イ 1 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	15 0.99	94 1 0.63 am*ウ 48 2 0.62 ご), 身*の 3 の配置	1 0. arエ 3 1)状態(mrオ 39 2 14 1.8 右):蔓延	数線 mカ mカ 16	16 : 図)	1 1.	57 2 2 04 4 4 4 16 3 3 86 1	e/ 31 1.44 条(下	1.39	aス	23	ス分
ッキッキ	3 頻度 個数 7 頻度	2 0.7 aeγ 10 5 0.6	70 ee-イ 1 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	15 0.99	94 1 0.63 am'7 48 2 0.62	1 0.1 arエ 3 1.1 b状態(mrオ 39 2 14 1.8 右):蔓延	数線 mカ mカ 16	16] 関係	1 1 1 2 1 と蔓延	57 2 2 004 in 16 3 86 1 1 1 1 1 1 1	e/ 31 1.44 条(下	7 1.39 図)の	aス は マト) / 23 J / 2	マ分
が、ツキー・部に	3 頻度 個数 7 頻度 家身	2 0.7 aeア 10 5 0.6 身	70 eeイ 1 1 9 9 9 9 1 で 1 表表・地上	15 0.99	94 1 0.63 am*ウ 48 2 0.62 ご), 身*の 3 の配置	1 0.1 arエ 3 1.1 b状態(772 mrオ 339 2 2 右):蔓延	数線 mカ mカ 16	16 : 関係 : 図) : 個数	1 1 1 2 1 と 蔓 女	57 2 2 004 16 3 86 1 E番以降	2.83 31 1 1.44 年(下	7 1.35 図)の *の状態	aス は マト) / 23 J / 2	又分
ツキー・部に	3 須度 個数 7 頻度 一家 5	2 0.7 aeア 10 5 0.6 β	70 eeイ 1 1 69 の配置 表・地上 151 2	15 0.99	94 1 0.63 am*ウ 48 2 0.62 ご), 身*の 3 の配置	1 0.1 ar工 3 1.1 分状態(772 mrオ 339 2 2 右):蔓延	動線 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16	16 :	1 1 2 1 と蔓至 A	57 2 04 3 3 3 86 三 番 出 数 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	83 31 1.44 Φ(Γ 266	7 1.35 図)の *の状態	aス は マト	/ 23 リクフ E 3	ス分
が、ツキー・部に	3 頻度 個数 7 頻度 家身	2 0.7 aeγ 10 5 0.6 β	70 eeイ 1 1 9 9 9 9 1 で 1 表表・地上	15 0.99	94 1 0.63 am*ウ 48 2 0.62 ご), 身*の 3 の配置	1 0.1 ar工 3 1.1 分状態(772 mrオ 339 2 2 右):蔓延	動線 rrカ 16 発動(上	16 : 関係 : 図) : 個数	1 1 2 1 と蔓至 A	57 2 04 3 3 3 86 三 番 出 数 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	2.83 31 1 1.44 年(下	7 1.35 図)の *の状態	aス は マト	/ 23 リクフ E 3	又分
が、ツキー・部に	3 須度 個数 7 頻度 一家 5	2 0.7 aeア 10 5 0.6 β	70 eeイ 1 1 69 の配置 表・地上 151 2	15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 1	94 1 0.63 am*ウ 48 2 0.62 ご), 身*の 3 の配置	1 0.1 ar工 3 1.1 分状態(772 mrオ 339 2 2 右):蔓延	動線 rrカ 16 発動(上	16 :	1 1 2 1 と蔓至 A	57 2 04 3 3 3 86 三 番 出 数 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	2.83 31 1.44 条(下 266 1	7 1.35 図)の *の状態	a	/ 23 リクフ E 3	又分
*ッキ	3 頻度 個数 7 頻度 個數 5 頻度	2 0.7 aeア 10 5 0.6 β ルルト 100 1 1 0.36	70 eeeイ 39 の配置 表・地上 151 2	15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 1	94 1 0.63 amヴ 48 2 0.62 (), <i>β</i> * の 3 の配置 空 東・上:	1 0. ar エ 3 1 3 大態(772 mrオ 2 2 1.4 1.8 並ん 右): 蔓延 下 / 10 31 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	動線 rrカ 16 発動(上	16 :	1 1 1 2 1 と 蔓 致	57 2 04 3 3 3 86 三 番 出 数 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	2.83 31 1.44 条(下 266 1	7 1.39 図)の *の状態 1	a	/ 23 リクフ E 3	又分
が、ツキー・部に	3 頻度 個数 7 頻度 個數 5 頻度	2 0.7 aeア 10 5 0.6 β ルルト 100 1 1 0.36	70 eeeイ 39 の配置 表・地上 151 2	15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 1	94 1 0.63 amウ 48 2 0.62 こ), β * の 3 の配置 2 裏・上:	1 0. ar エ 3 1 3 大態(772 mrオ 2 2 1.4 1.8 並ん 右): 蔓延 下 / 10 31 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	動線 rrカ 16 発動(上	16 17 77 77 16 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18	1 1 1 2 2 2 3 A	57 2 004 3 3 86 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	e/2.83 e/2.83 1 1 1 1 1 1 1 1 1	7 1.39 図)の *の状態 1	aス aス T T T T T T T T T) / 23	又分
部になる。	3 頻度 個数 7 頻度 個數 5 頻度	2 0.7 aeア 10 5 0.6 pg・地上 100 1 0.3G 要・地上 100 1 0.3G	70 eeイ 1 1 59 の配置 表・地上 151 2 0.47	15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 1	94 1 0.63 amウ 48 2 0.62 こ), β * の 3 の配置 2 裏・上:	1 0. ar エ 3 1 ン状態(772 mrオ 2 2 1.4 1.8 並ん 右): 蔓延 下 / 10 31 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	動線 rrカ 16 発動(上	16 16 17 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18	1 1 1 1 2 2 1 2 2 3 3 4	57 2 04 3 3 3 5 6 6 115 4 9,93	e ² / ₃₁ 1 1 1 4 4 F C C C C C C C C	7 1.39 図)の *の状態 1 2.7 *の状態	aス aス T T T T T T T T T) / 23 I) / 2 E 3	又分
ツキ 部に 原産	3 頻度 個数 7 頻度 個數 5 頻度	2 0.7 aeア 10 5 0.6 pg・地上 100 1 0.3G 要・地上 100 1 0.3G	70 eeイ 1 1 59 の配置 表・地上 151 2 0.47	15 00.99 图(左	94 1 0.63 amウ 48 2 0.62 こ), β * の 3 の配置 2 裏・上:	1 0. ar エ 3 1 ン状態(772 mrオ 2 2 1.4 1.8 並ん 右): 蔓延 下 / 10 31 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	動線 17 方 16	16 16 17 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	57 2 04 3 3 3 5 6 6 115 4 9,93	e ² / ₃₁ 1 1 1 4 4 F C C C C C C C C	7 1.39 図)の *の状態 1 2.7 *の状態	aス 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1) / 23 I) / 2 E 3	2

表2注) 頻度の上に書かれるマトリクス内の数字は該当する言説数を表す

個数 aeア

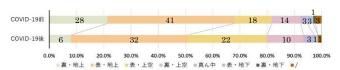


図8"建築化された領域"の配置の変化

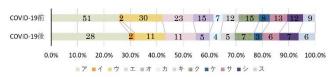


図10 動線接続ののCOVID-19蔓延前後の変化

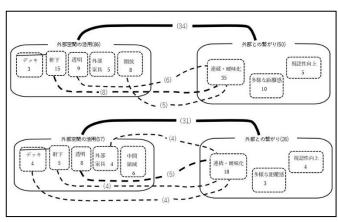


図11 親和図法:蔓延前(上図)と蔓延後(下図)

(図11,表2)

- (2)軒下・外部に家具設置の時,リビングと接点空間の一体利用の増加(**図11**, 表2)
- (3)接点空間(庭)と街路の視線的連続性の増加(図9)
- (4)接点空間と住宅内部の視線的連続性の増加(図9)
- (5)建築化された領域・接点空間は前面道路に接する (図7,8)
- (6) 裏庭にデッキを配置し, プライベート化(図11, 表2)
- (7)玄関周りを中心とした動線計画の増加(図8)

3.2. アンケート調査

(1)コロナ禍におけるアクティビティ

コロナ蔓延期間中は、外出頻度が大幅に減少し、通勤時間・勤務時間が減少している傾向にある一方で、自由時間や家事時間の増加が確認できた。コロナ禍にって、自宅にいる時間が増えたことが考えられる.

次にコロナ蔓延期間の「接点空間」において変化したアクティビティを図にまとめた(図12). 蔓延期間で"増えた"と答えた人数は、"ガーデニング"が最も多く、次いで"読書"であった. 蔓延期間で"減った"と答えた人数は、"友人・近隣住民との交流"が最も多かった.

同様に、コロナ禍後に「接点空間」で行いたいと思っているアクティビティをみていくと、最も行いたい人数が多かったのが、"ゆっくり過ごす・日向ぼっこ"であった.

(2)接点空間の設えとコロナ禍での近隣住民との交流

文献調査で導き出された"交流を生み出す"接点空間の設えの特徴((1)~(7))と在宅時間が増えたコロナ禍における近隣住民との偶発的交流の変化について、クロス集計を行い、設えが偶発的交流に有意に影響を及ぼしたか否かをカイ二乗検定で検証した(表3).カイ二乗検定

の有意水準は、*p<0.05,**p<0.01とした。また、*p<0.1は、関連があるものとして表現した。

その結果、(5)前面道路の関係、(6)デッキの有無、(2) リビングと接点空間の関係が、コロナ禍における近隣住 民との偶発的交流の変化に有意に影響していた。これら について残差分析を行った結果, 「リビングと接点空間 が一体的につながっている」、「デッキがある」の特徴 を持つ空間構成が、偶発的交流が増えたことに起因した. 「デッキがある」に偶発的交流が生まれたのは、外出を しなくても、身近に自然の心地よさを取り入れることが でき、またデッキに出ることで、住宅内にいながらも他 人(近隣住民)との距離を保ち、住宅の領域外の人たち との視線が交わり偶発的交流が増えたと考える. 「リビ ングと接点空間が一体的につながっている」に偶発的交 流が生まれたのは,一体化することで建物内部にいな がら外の環境を感じられる空間がつくられ, 住宅 外の領域の人々との視線が交わったからだと考え られる、接点空間と街路の関係は、「接点空間が外部に 接している」と偶発的交流に影響を及ぼす可能性が高い ことが分かった.これは、住宅内部よりも住宅の外部に 接することで住宅外の領域からの視認性が向上し、偶発 的交流が生まれやすいと考えられる. さらに、接点空間 のうち偶発的交流が増えたと答えた人数が最も多かった 場所は,玄関であった.

4. 結論・まとめ

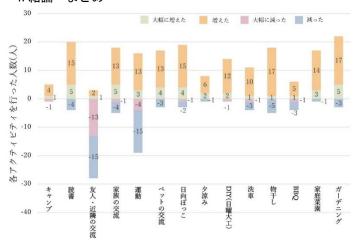


図12 COVID-19蔓延前後のアクティビティ変化

本研究では、文献調査とアンケート調査を用いて接点空間の設えとコロナ禍前後の接点空間におけるアクティブティの関連を調査した。その結果、文献調査からは、「外部と繋がるための工夫」として設計側が考える7つの空間特性が抽出された。またアンケート調査では、文献調査で抽出した7つの空間特性のうち、接点空間と領域外と関係、デッキの有無、リビングと接点空間の一体利用が、コロナ禍における近隣住民との偶発的交流の変化と関連があることがわかった。以上の結果から、住宅が、玄関廻りを中心とした動線計画で「リビングに接点空間を繋げ、内外を一体化し、デッキを用いる」ことで偶発的交流が生み出される可能性が示唆された。

ただし、文献調査では、2020年4月以降に設計された 住宅の事例数が少なく、十分な検証ができたとは言い難 い、接点空間の設えと近隣住民との偶発的交流の関係に ついても、webアンケート調査の検証のみである。今後、 抽出した空間特性を持つ住宅の現地調査や住民へのインタビュー調査等により、より具体的な検証が必要である.

参考文献

- 1) 株式会社ザイマックス不動産総合研究所,「首都圏オフィスワーカー調査2020」
- 2) 安田結美,村川真紀,山田あすか:新型コロナウイルス感染症による外出自粛期間における生活空間とストレス感の関係について日本建築学会技術報告者 第27巻 第66号 887-892 2021年6月3) 鈴木雅智,新井優太,清水千弘:COVID-19第一波前後に生じた潜在的な住宅選考の測定-首都圏の新築・中古住宅に対する資料請求状況の分析 公益社会法人 日本都市計画学会 都市計画論文集56巻 第3巻 2021.
- 4) 竹田和行, 菅沼響子, アルマザン ホルヘ:コモンスペースの設計 論に関する研究(その1)-コモンスペースにおける地域への繋がりを目的とした設計論- 日本建築学会計画論文集 第85巻 第778号 2020年12月
- 5)ここでの頻度とはマトリクス各項目に該当する事例数の頻出割合を示す.例えば,**表2**の最左上のマスでは,該当する言説数(=該当する事例数):9×空間的側面に関する全言説数: $178/(天井に関する言説数:<math>15\times \beta$ の配置でbgの言説数:100)=1.068 = 1.07として算出した.

表3 偶発的交流に影響を及ぼす要因

偶発的交	流の具合	増えた	変わらない	減った	合計	x 2=
軒下空間	あり	6(11%)	40(71%)	10(18%)	56	1.20
+1 1 1 1	なし	2(5%)	33(77%)	8(18%)	43	1.21
リビングとの 一体性	あり	9"(17%)	29*(56%)	14(27%)		·
	09	1.66	-2.18	1.18	52	5.15
	なし	3"(6%)	36*(73%)	8(17%)	47	0.05< p<
	16 L	-1.66	2.18	-1.18		
5路の視覚的	クローズ外構	4(20%)	11(55%)	5(25%)	20	
ョ始の悦見的 連続	セミクローズ外梢	3(9%)	20(58%)	10(33%)	33	2.0
	オープン外構	4(21%)	11(58%)	4(21%)	19	
ガレージ	視線連	6(15%)	25(62%)	9(23%)	40	
	視線遮	4(11%)	24(65%)	9(24%)	37	0.9
	空間が存在しない	2(9%)	16(73%)	4(18%)	22	
	視線連	4(14%)	17(61%)	7(25%)	28	
庇空間	視線遮	4(14%)	18(64%)	6(22%)	28	0.8
300001-0	空間が存在しない	4(9%)	30(70%)	9(21%)	43	
	視線連	3(11%)	15(56%)	9(33%)	27	
縁側	視線遮	5(24%)	14(67%)	2(9%)	21	6.8
and neg	空間が存在しない	4(8%)	36(70%)	11(22%)	51	0.0
	視線連	7(12%)	38(66%)	13(22%)	58	
ベランダ	視線遊	4(16%)	16(64%)	5(20%)	25	0.9
~ / / / /	空間が存在しない	1(6%)	11(69%)	4(25%)	16	0.5
	視線連	3(14%)	11(53%)	7(33%)	21	
庇+緑側	祝線遊	4(19%)	16(76%)	1(5%)	21	6.5
比七十 柳秋识	佐藤延 空間が存在しない				57	0.0
		5(9%)	38(67%)	14(24%)		
	視線連	5(19%)	16(62%)	5(19%)	26	100
デッキ	視線遊	3(21%)	9(64%)	2(15%)	14	4
	空間が存在しない	4(7%)	40(68%)	15(25%)	59	
and the second	視線連	2(11%)	13(68%)	4(21%)	19	
光庭	視線進	4(23%)	11(65%)	2(12%)	17	3.3
	空間が存在しない	6(10%)	41(65%)	16(25%)	63	
	視線連	8(12%)	43(62%)	18(26%)	69	
庭	視線遮	3(17%)	11(61%)	4(22%)	18	5.0
	空間が存在しない	1(8%)	11(92%)	0(0%)	12	
200 0 000	外部に面してる	11(15%)	42*(59%)	19(26%)	72	
「接点空間」		1.571	-2.506	1.628	12	6.3
街路の関係	外部に面してない	1(4%)	23*(85%)	3(11%)	27	p<0
	アトロトに囲してない	-1.571	2.506	-1.628	21	
	4.11	7**(17%)	28(70%)	5(13%)	40	
	あり	2.831	-0.696	-1.207	40	8.6
デッキ		1**(2%)	45(76%)	13(22%)		p<0
	なし	-2.831	0.696	1.207	59	
	外部に面している	0	10(91%)	1(9%)	11	1991
デッキあり	外部に面してない	0	0	0	0	1
	リビング	3	0	0	3	
8	玄関	10	0	0	10	
	前庭	2	0	0	2	
laborate DD as	ガレージ	5	0	0	5	
接点空間の	成	0	0	0	0	1
空間構成	パルコニー	3	0	0	3	8
- 197497W		3	U	U	- 3	
100000000000000000000000000000000000000	デッキ	2	0	0	2	
	デッキ 主庭	2	0	0	2	

表5注) *p<0.05, **p<0.01, "p<0.1は関連有とする. p値が低いほどグレーのハッチングを濃く表す. 有意差が確認できた枠内の下の数値は、調整済み標準化残差を表す.